

## 中期段階における外国語（英語） の指導方法

岡 田 久

初期段階においては身近な教材で常に学習者自身を活動させて積極的な演習をさせ、できるだけその演習時間内に消化させるように指導して反復練習の習慣性の形成を強調して指導の中心としてきた。

さて、中期段階の初期においては、少なくとも簡単なものであれば、外国語（英語）で表現できるように指導していくのが望ましい。したがって、初期段階で習得してきたものに少しづつ肉づけ作業をおこないながら指導していきたいと思う。先づ、この段階の指導方法として、一つの単元のみの学習に力を入れないで、一貫性のある多方面に応用のできる学習法を考えていきたい。尚、此の時期は、外国語（英語）に対する考え方もほぼ固定して、好き、嫌いの区別がはっきりとでてくる、所謂、中だるみ時期も含んでいるので、その指導の方法も慎重に考慮されねばならない。従って、下記の順序により此の段階の指導の方法を少しのべてみたいと思う。

1. 前半 = 初期段階で勉強してきたものの復習と、少し程度を高めた教材で徐々に質、量的な練習になれさしていく。

中間 = 出来るだけ具体的なもの — 特に絵などを通して学習者達の理解力を効果的にひきだし  
ていくように指導していく。

後半 = 前半、中間にやってきた学習の反復練習と総合的な学習方法になれさしていくようにする。

極く身近な事物から語彙力の養成や語の順序などを学習してきた初期段階の練習を通して指導をしていく。大体において、初期段階を終る頃には文章の種類（説明文、疑問文、否定文、感嘆文など）、助動詞、前置詞、Be 動詞、一般動詞、その他などの文法的な知識も少し頭に入っているわけであるが、それをどのように活用し、学習者の身につけさせることが出来るかは、これからの指導の問題点であると思う。

中期段階 1. 前半 = 初期段階の総復習及び既習の材料をつかって「話し英語」の練習・顔の部分の名称より文体への導入練習と既習文型の活用。

（例 1）

1. head, ear, eye, nose, mouth

This is my head.

Is this my head ?

Yes, it is.

This is not my head.

This is my eye.

Is this my eye ?

No, it isn't. etc.

big, small の形容詞をつけて,

This is my big eye.

This is my small eye.

2. eye = I can see. Can you see ?

ear = I can hear. Can you hear ?

nose = I can smell. Can you smell ?

mouth = I can eat. Can you eat ?

I can speak. Can you speak ?

tongue = I can taste. Can you taste ?

(例 2) 教材 Key

I put a key into my pocket.

I take out a key from my pocket.

I give a key to Mr. A.

My key is in my pocket.

Your key is in your pocket.

Am I holding a key ?

No, you aren't holding a key.

You are holding a yellow pencil.

I give a yellow pencil to Miss A.

I take a yellow pencil from Miss A. etc.

(例 1) においては初期段階で勉強してきた語彙の習得より、助動詞＋一般動詞の型へうつり、(例 2) においては、一般動詞、前置詞、現在進行形などの基礎文型へと移行している。なお、此の場合の基礎文型は練習量によって自国語で説明をしないで理解さすようにするのが望ましい。暗記力が旺盛で、又めあたらしいものにぶつかっていこうという此の時期に頭にたたきこまれたものは、いつまでもおぼえていて活用することが出来るものである。外国語(英語)の音声になれば、外国語(英語)で考え、外国語(英語)で話すという習慣性が如何に大切であるかは、学習中ではなく、むしろ社会に出てはじめて痛感するものである。本を読むだけで十分に知識を得て、容易に意志の伝達をはかることの出来る人も

いるだろうが、語学の勉強というものは、常に、一步一步の精神がなければ目的に到達するには困難である。指導者にとっても、学習者にとっても、自ら体験し、実践したものでなければ、語学研究における反復練習の習慣性がいかに重要であるかを理解できないかも知れない。

中期段階の中期になると、初期段階の反復練習、耳のききかた、口のつかい方などの練習も相当に熟練してくるので、惰性におち入らないように絵などを用いての練習にしばらくの間きりかえてみるのも効果的な勉強法である。この絵を通しての練習は直接に外国語（英語）で考え、文章を作成し、そして発表するという能力を養成するのに最適なものであると思う。はじめはやさしい、簡単なものをえらんで、Key words にしたがいがいながら、出来るだけ沢山の文章をつくるように導いてやるようにする。

例： 1. 走っている犬の絵を示し、

dog / run (Key words)

A dog runs.

A dog is running.

Is a dog running? etc.

2. 飛んでいる鳥を示し、

bird / fly

A bird flies.

A bird is flying.

Is a bird flying? etc.

3. ねむっている花子さんの絵を示して、

Hanako / sleep

Hanako sleeps.

Hanako is sleeping.

Is Hanako sleeping?

上記のように、少なくともここにあげられている文章が作られると思うが、語彙力がましてくるたびに、もっとちがった方面より文章をつくることが出来るようになる。例えば、例1.の絵では犬の種類や、大小などの形容詞がつけられたり、例2.の絵では鳥の種類がもってこられたり — 描かれている鳥が雀になったり、又はツバメになったり —、例3.の絵では、花子さんが木製のベッドにねていたり、黄色のマクラをしていたり、又大きなイビキをかいているとかの表現が用いられるかも知れない。このように想像力ゆたかに、出来る限りの語彙をつかって、自分のもっている知識を充分にいかすことが出来るようになると思う。又この反対に、いままで勉強してきて頭に入っている短文などを逆に「絵」によって答えるということも出来る。然しながら、学校教育における外国語（英語）の指導が、中学、高校ともに入試の準備期間と思われるふしがあるが、思いきって一週一時間でも、このような指導にふりかえていかねば、いつまでも外国語教育の目標は達せられない。（勿論、現在、多くの学校が独自の方法で

研究、努力を重ねているときいているが)上記のような学習法が、ただ単に理想的な夢を追うものでありとみられても、又長つづきしないものであると思われるでも、時間をさいてやるだけの効果はあると確信するし、学習者達の興味をひいて学習意欲をもりたてるものであると信じている。

さて上記のように文章を(既に頭に入っているもの、新しいもの)、一幅の絵によって答える方法は案外に面白く時間のたつのも忘れさせてくれる学習法である。かりに下記のような文章があるとする、どのような一幅の絵が出来あがるかたのしみである。

(例 文)

This is my house. The sun shines brightly in the sky. There are many beautiful flowers around the house. There is a pond in the garden. A man is fishing. Two birds are on the roof and one is flying in the sky. My brother, Taro is standing by the door.

描かれた絵がまづい絵であっても、文章の中で要求されている事物が全部かかれていたら、その文章をよく理解しているものと見なしてよい。どのような絵であれ文章の意味がよく把握されて一幅の絵になっていればいいわけである。皆たのしみながら絵の製作にうちこむことが出来ると思う。絵が出来あがったあとは、必らず質疑応答をなして、しめくくりをするという事が大切である。先づ、基本的な質問を一行づつすませて、あとで全体的な質問をなしてしめくくりようにする。

1. 誰の家ですか。
2. 晴天か、雨降りか又は曇天か。
3. 家のまわりに何があるか。
4. 庭に何があるか。(庭の中にあるものは何でも可とする)
5. 誰れが魚つりをしているか。
6. 何処で魚つりをしているか。
7. 屋根の上に何羽の小鳥がとまっているか。
8. 空に何羽の小鳥が飛んでいるか。
9. 誰がドアのそばにたっているか。
10. 弟の太郎はどこに立っているか。

大体、上のような質問で文章の中に出てくる事物、数などが確認される。2羽の小鳥が3羽描かれていたら間違いである。その場で訂正させながら文章把握の力をつけさすように指導する。基礎的な質疑応答が出来るようになれば、あらゆる方面から質問して"話す"という機会を与えるようにする。

先生： 絵の中に何があるか？

What are there in the picture ? or What can you see in the picture.

生徒1. 家が一軒ある。

There is a house.

先生： 家を除いて何があるか？

What can you see beside a house ?

生徒2. たくさんの美しい花や池がある。

I can see many beautiful flowers and a pond.

先生： 池の中に何がいますか。

What are there in the pond ?

生徒3. 魚がたくさんいます。

There are many fish.

先生： 魚つりは好きか。

Do you like fishing ?

生徒4. はい、魚つりは好きです。

Yes, I do.

知っている語彙や文型は出来る限り活用さすようにしむけていくようにする。新しい単語や文型の練習も絵の力を借りると、案外たやすく消化することができる。特に前置詞などの学習には効果的であると思う。

例： 1. 猫がテーブルにとびつこうとしている絵を見せて、

This cat is jumping ONTO a table.

2. テーブルにとびついた猫の絵を見せる。

もうテーブルの上のっていますよ。

Here it is. ON the table.

3. テーブルからとびおりる猫の絵を見せる。

同じ猫がテーブルをとびおりる。

The same cat is jumping OFF the table.

4. テーブルをはなれた猫の絵を見せる。

It's OFF the table now.

精神的負担のかからない、又威圧感をおぼえない学習法の一つが、絵を通して学ぶ方法であると思う。現在の外国語（英語）教育の悩みというものは、指導時間が充分にとれないということであるが、" 巾ひろく浅く " というよりも、一つのものをじっくりと身につけさせながら進んでいくということが大切である。勿論、限られた時間内での指導であるので、机上の空論と片づけられるかも知れないが、要は、" 社会にでて活用できる外国語（英語）の学習法の会得 " ということが目的であるので、与えられた、その限られた時間を充分に活用し、努力していきたいものである。

中期の前半から中頃にかけては、今迄の学習方法を踏襲していき、後半に入るにつれて、今までやってきた練習方法に、ある一定の型というものをくりだして、必らず時間の終りには、此の一定の型ののっとってしめくりをするという習慣をつけていくと、今迄の勉強の結果が確認されて、指導の点に

においても、学習する点においても、よい結果を得ると思う。

一定の型式とは特別に変った型ではなくて、時間の終りに、今迄の勉強が理解されているかをみる為に、使用した教材の種類により少し変化することはあるだろうが、Do, Have, When, Who, Where, What, Which 或は Can などではじまる疑問文を用いて総復習を必ずなすようにするというのである。此の段階では適当な材料を手もとにおいて学習する機会が多くなってくるし、テキストがいつも自分のそばにおかれているので、"目に頼る"機会も多くなってくる。従って、そのつど、勉強の方法を工夫考案していかないと、今迄の勉強法では物足りなく感じてくる者をつくり出すおそれも出てくる。安易な学習方法が受けるのは当然のことであるが、学習者達を毒するのでも又、大きいものである。例えば、He's an idle man. という文章を音声だけできく時と、文章を目で見ながら聞く時では、その理解度は後者の方がはるかに大である。又 Thank you. という言葉を目で見えて読む時は Sæyk ju になりがちであり、音声をきいて発音する時は, θæyk ju となる。何故なら、前者は目の力を借りたために耳の集中力が半減したためであり、後者は音声に全神経を集中さす為に、ほぼ正確な音がきけるものである。ti:tʃə (teacher) が tʃi:tʃə とならぬように安易なほうに傾くのを注意しなければいけない。従って、此の中だるみ時期を含む中期段階の、特に中半の指導法には気をつけて、今までやってきた練習が無駄にならぬように、常に創意工夫の精神をもって努力していかなければならない。つづいて指導者と学習者達との間でとりきめられている "一つの学習の型" というものを、例文をあげてのべてみたい。(但し、このような練習の仕方はどこでも行われていると思うが)

例文：

It was Sunday. I never get up early on Sundays. I sometimes stay in bed until lunch time. Last Sunday I got up very late. I looked out of the window. It was dark outside.

"What a day!" I thought. "It's raining again." Just then, the telephone rang. It was my aunt.

"I've just arrived by train," she said.

"What are you doing?" she asked.

"I'm having breakfast," I replied.

"Dear me," she said.

"Do you always get up so late? It's one o'clock."

上の文章の中に、時制 — 現在, 過去 — , 副詞, 前置詞, 現在完了, 現在進行 etc., の文法的材料がふくまれている。これらの基礎的な文法をおりこんで、出来るだけ沢山の練習量で、それぞれの形を身につけさすようにするのが望ましい。尚、文中にでてきている動詞 = Be 動詞, get up, stay, look, think, ring, arrive, ask, reply, say などの動詞の活用はきびしく指導してまちがいのないようにおぼえさせねばならない。今迄に出てきている動詞も取りだして、規則動詞, 不規則動詞の別を頭に入

れさすようにする。ちなみに文中に出てくる主語の I を Taro として、ここにいくつかの質問を考えてみたい。

1. Does Taro always get up early on Sundays or does he always get up late ?
  2. Did he get up early last Sunday ?
  3. Who telephoned then ?
  4. What did she say ?
  5. Had she arrived by train or had she come on foot ?
  6. Did Taro say, "I'm having breakfast." ?
  7. Was his aunt very surprised or not ?
  8. What was the time ?
  9. Was it raining last Sunday ?
  10. Do you get up early on every Sunday morning ?            etc.
- 又、It's raining. I am having breakfast. の進行形の文体をとって、

What are you doing ?

I'm still sleeping ?

I'm reading.

I'm writing a letter.

I'm singing a song.

What is he doing ?

He's laughing.

He's eating.

He's sitting on the table.

He's playing tennis.            etc.

副詞の位置の練習として、

always : Do you always get up so late ?

I always go to church on Sundays.

She always sings a song before breakfast.

They always play base-ball in the ground after school.            etc.

never : I never get up early on Sundays.

She never goes there.

They never play base-ball with us.

又、練習の形式をかえて、( ) の中の言葉を正しい位置に入れさす。

1. I eat potatoes. (always)

2. We play tennis after lunch. (never)
3. My mother goes to market. (always)
4. My father sings a popular song. (never)                      etc.

以上のような問題 — まだ沢山の質問が作られる — が用意されると思う。練習や質疑応答の場合は、はじめからテキストをもたせないで、最初のうちは、指導者のいうことに集中して耳を傾けさせるようにする。たとえ誤りが多くても根気よく、何べんも繰返してきかせ、正しい音声や正しい答えが出来るようにする。相当に耳の訓練が出来ていても、話されていることを全部とらえることは大変むづかしいことである。理解しにくいという事は、話されている事がわからないという事でなくて、話されている外国語（英語）の音声聞き取れないことである。初期段階の時よりも話される速度も速く、材料もやや高度になってくるので、音声をききとる努力が一そう必要となってくる。この音声をききとることが出来ないということが、社会に出て、外国人と接する機会があっても、相手の話しが理解できないうで、意志伝達が困難であるという原因の一つになっていると思う。鉄砲だまのようにうちだされる言葉をうけとめるには、一に訓練、二に練習にはかならない。

副詞の練習には一語方式により（副詞を一つあたえて文を作らせる方法）効果をあげることが出来る。

例： Teacher : Sometimes

Pupil : He sometimes goes to school.

T. : Often

P. : I often buy chocolates.

T. : Rarely

P. : She rarely gets up before 9 o'clock.                      etc.

トンとおとせばカンとひびくこの鍛冶屋方法は耳の訓練、話し方、又スピードをつける練習に大変役にたつものである。副詞に限らずどのようなものにも応用できる。例えば、Key sentences : What a day. / (教材の中に出ている)

1. What a day. /

It's a terrible day.

T. : Nice

P. : What a nice day it is. /

T. : Beautiful

P. : What a beautiful picture it is. /

T. : Big

P. : What a big dog it is. /

2. This is a wonderful news.

What a wonderful news it is. /

T. : You are a diligent boy.

P. : What a diligent boy I am.

T. : She is a pretty girl.

P. : What a pretty girl she is. / etc.

上記のように、出来るだけ沢山の練習の量によって会得させていくようにする。"打てばひびく"という感応性はこのような練習を通してひきだしていくべきである。

自分で短い文章でもつくれるという自信は、話す、書く、という自信にもつながっていくものであり、一枚の絵を見ながら、想像力を豊かにして自作物語をつくらすのも、又楽しい勉強法である。勿論、表現力、話術の養成に役立つものである。この頃より、訓練をして、即座に話せるという力を養っていくと、これが、社会に出た時に、"活きた英語"として活用できるものと信じている。最初から高度なものをさせて、Key point にしたがって文章作成に導入していくのが望ましい。

(例1) Key Point : 現在進行形, 過去進行形

庭でマリつきをしている花子さんの絵を見せる。

1. Hanako is playing in \_\_\_\_\_ with \_\_\_\_\_.

2. Hanako \_\_\_\_\_ in the garden with \_\_\_\_\_.

犬のプチがボールをくわえて逃げる絵を見せる。

1. The dog \_\_\_\_\_ with \_\_\_\_\_ in his mouth.

2. The dog took \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_ with it.

お父さんが花子さんに事情をきいている絵を見せる。

1. Hanako is saying to her father, "Please \_\_\_\_\_ from the dog."

嬉しそうな花子さんの顔を見せる。

1. Hanako is very \_\_\_\_\_ now.

2. Her father took \_\_\_\_\_ out of the dog's mouth. etc.

最後に全体をくみ合はせて簡単なお話をつくるように指導する。与えられている Key Point になるものは必ず文中に応用さすようにさせる。このような練習の時は皆よく知っているような教材をつかうと一層の効果を上げることが出来る。例えば、昔から子供達になじみの深い"ウサギとカメ"のお話しなどは、うってつけの教材であると思う。Key words も新しい語をまぜ合せて与えると、創作意欲も一段とあがるものである。Key words として、

Let's \_\_\_\_\_, as far as, ran very quickly/ran very slowly, under a tree, go on and on, without, at last, be surprised to, for a while, decide, etc.

をあたえ、意味を理解したあと作業にうつらせるようにする。勿論、絵を見せながら、Key words を使った作業であるので、興味深く勉強が出来るものと思う。Once upon a time ではじまる文章であってもよいし、ウサギとカメの対話式(dialogue)にしてもいいし、いづれにしても、表現力を豊かに

ださせて、知っている単語や句などを充分につかかわすように指導していくようにする。少し位のまちがいは問題ではないが、主語と動詞の位置がひっくりかえるような文章は特に注意して、文章作成の上で助力をあたえていかなければならない。とにかく、自分で作ったものを発表さすという態度を養成していくべきである。

さて、中期段階の中頃より、ボツボツとクラス内において、拒絶反応をおこしてくるものが出はじめてくる。初期段階において、積極性や興味をもたせるように歌唱指導によって、クラスの流れをかえるように指導してきた。この中だるみ時期においても、上述のような絵による指導法で少しは拒絶反応を和らげることができると思うが、歌唱指導によって、精神的負担をとり除いてやり、外国語（英語）に対する気持をはぐしてやるようにする。初期段階に指導した「音声に慣れさせる」という方法はすでに会得しているので、歌いこむことは困難ではない。従って、十分に歌いこなせると判断すると、その歌詞を用いて質疑応答をなしていく。頭の中に歌詞が入っているために、自信をもってクラスの中にとけこんでいけるものである。即ち、クラスの空気をかえてやることである。更に面白いと思う方法は、クラスの中には、1人や2人は絵の上手な子供がいるはずであるので、その子等に歌詞を絵にあらわさせて、その絵を教材にして、practice through picture の勉強方法にもどしてやるように指導する。歌はむつかしいものをさけて、歌いやすいものを選択するようにする。練習過程として、

1. 歌詞の意味
2. 新しい単語や困難な単語の意味の説明
3. 正しい Sounds の指導
4. 歌唱指導
5. ある一部分をブランクにしてうづめさせる（此の場合はプリントを使用する）。
6. 主要単語をぬき出して、その単語をヒントにして散文になおさせてみる。
7. 完成された散文の発表
8. 散文になおされたものを教材として質疑応答をなす。
9. model 文章をあたえる。
10. Home work 用として、歌詞と model 散文の暗誦をさせる。

以上のような過程で練習をなし、集中力、理解力、発表力等の養成と同時に、此の中だるみ的气氛の転換をはかってやるように指導していく。

さて、中期段階の後半になってくると、外国語（英語）の知識も、又勉強の方法も身についてくるし、話しかたの技術も、かなり会得してくるので、表現のしかたを、やや高めて、少し肉づけされたものに移行していくと一層の興味をおぼえて学習にはげむことが出来ると思う。例えば、一人の人物を相手にわからせようとする時、なるべく詳しい説明をしてその人物の外観をあてさせるようにする。年令、背の高さ、顔（目、鼻、口などの大小）、服装、若しいつも帽子をかぶっているならば、その帽子の型、色など、又靴、ハンドバッグの型や色、等々を出来るだけくわしく説明するようにする。勿論、表現の

しかた、新しい単語などは、前もってみんなで考えて頭に入れておくようにする。まづ、一枚の人物の描かれている絵をみせて外観をつくりあげる練習をしてみる。先づ、次のような項目より入る。

年 令： She is 12 years old.

Her age is 12.

She is a 12-year old.

髪 : black, dark brown, grey, blonde, etc.,

口 : big, small

口びる： thick, thin lips

目 : big, small

マ ュ： thick, thin eyebrows

外 見： slim, slender, fat, stout, overweight, etc.,

以上のような項目よりはじめていくようにする。興味が出てくるにつれて、自分から新しい語彙を探してきたり、又身近かな人を見て、例えば、その人の鼻の形が少し、鷹鼻に似ていたら、鷹鼻は英語でどういうのだろうか、又頭が少しはげていたら、はげという英語の言葉を知りたいという欲望をおこしてくるものである。この知識への欲望が学習を向上させていく大きな源泉となるものであり、耐えず、知りたいという欲望をおこさせるように指導していかなければならない。このような練習で、語彙力を増やし、又表現の方法も豊かになってくると、ある事物を示して、自分の力で、その事物を説明させていくようにする。教室にある黒板や机、椅子、鉛筆、筆ばこ、カバン、花瓶、花、等々たくさんの材料をつかって練習量をましていき、総合的な知識を養うように指導していく。又逆に、事物を見せないで、説明だけをあたえて、その事物をあてさせる謎々方法も面白い、受ける学習方法ではないかと思う。一例をあげると、

1. It has a long handle.

2. I can find it in the kitchen.

3. I can use it in the morning, in the afternoon and in the evening when I make my meals.

4. I always put it on the gas.

5. I sometimes make bacon-egg with it in the morning.

What am I ?

Answer : a frying-pan.

いづれにせよ、此のような練習は興味をもって勉強することが出来るし、又練習が身についてくると、自信をもって、積極的に学習に立むかっていくことが出来るようになってくる。自分だって、"英語が話せるんだ"という自信が、やがては、もっともっと勉強してたくさんを知りたいという強い願望にまでひろがっていくと思う。

以上のように、中期段階（中だるみ時期を含む）における一番よいと思われる学習方法をのべてきた。絵を用いたり、文章を絵にあらわさせたり、又歌唱指導で気分の転換をはかったり、肉づけ表現法を勉強したり、いわゆる、出来るだけ沢山の身近かな材料をつかって、此の段階の指導をなしてきた。学習者と同様に、指導者も又、根気において、中だるみ気分を味う時期であるので、自分自身の気分転換に気をつけて、常に生き活きた精神を保持していかなばならない。

## 参 考 図 書

○ 言語の実際的研究

ヘンリー スウィート

小 川 芳 男 訳

○ Longman Elements of English Series  
Prepositions

by R. A. Close

○ Progressive Picture Composition  
Pupils' Book (Composition 1 and 15)

by Donn Byrne

○ 1977 年度研修ノート